

12月定例会

議長年頭あいさつ…………… 2

こんなことが決まりました… 3

村政を問う
5名が一般質問…………… 6

がんばる村内企業¹⁰
(株)IHターボ…………… 14

議会だより

お

お

くわ



第167号

令和4年
1月27日発行



中央アルプスとダム湖
撮影者：振田 正さん

年頭のごあいさつ

大桑村議会議長

岩佐 孝和

皆様方にはよき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年もコロナに始まり、コロナで終わる一年となつてしまいましたが、郡内では大きな感染拡大がなかったことは医療関係者はもとより、皆さんのしつかりとした対策のたまものと強く感じています。

3回目の接種も始まります。治療薬も認可へと進むようです。私たちは基本的なことを励行しながら明るい今後を目指したいと思っています。

村も素晴らしい大桑橋が開通しましたし、新庁舎の建設も外壁は仕上がりにつき工事の進捗も順調と聞いています。

議会も新しい姿を探るべく特別委員会を設けて、アンケートを実施したり会議も精力的に開催をしています。

どこかに求める形が見えてくることを信じて取り組んでいます。終わりにりましたが本年も私も議会に温かい叱咤激励をお願いし、皆様にとって穏やかな日常が戻りますようご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。



12月 定例会

12月定例会は、12月15日から12月27日までの13日間の会期で開かれ、委員長報告、陳情、組合議会報告、議長報告、行政報告、監査報告の後、一般質問（5名5件）が行われた。

村長提出議案は、変更請負契約2件、財産取得2件、村道路線の認定及び変更1件、木曾広域連合規約の変更1件、補正予算1件が上程され慎重審議し可決した。

こんなことが決まりました

～飲食店応援商品券、燃料油助成券、福祉灯油券を年内に発送～

10月臨時会

10月28日開催

●令和3年度一般会計
補正予算（6号）

新型コロナウイルス感染症対応による地域創生臨時交付金事業の追加と災害復旧費の追加計上

補正額

9926万1千円

補正後

59億6580万5千円

11月臨時会

11月26日開催

●【専決】

令和3年度一般会計
補正予算（7号）

新型コロナウイルス接種に係る経費の追加計上

補正額

83万3千円

補正後

59億6663万8千円

●村道路線の変更について

大桑橋完成に伴う、周辺村道の路線名、起点、終点の変更

12月定例会

12月15日・16日開催

●陳情（委員会付託）

●辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について国民的議論を行い、憲法に基づき公正かつ民主的に解決するべきとする意見書の採択を求める陳情

結果

委員長報告のとおり継続審査

変更請負契約

●令和2年度 大桑村
庁舎建設工事変更請負契約

変更金額

3900万6千円

変更後の金額

15億2400万6千円

契約の相手方

ヤマウラ・吉川・奥田特定建設工事共同企業体

●令和2年度村道中学校東線改良工事（繰越）

変更金額

304万7千円

変更後の金額

5623万2千円

契約の相手方

株式会社 半坂土木

財産取得

●大桑村庁舎什器購入（事務室エリア）

契約額

3267万円

契約の相手方

タカサワ通商株式会社 杜木曾営業所

●大桑村庁舎什器購入（会議室エリア）

契約額

1749万円

契約の相手方

有限会社 原文具

村道路線の認定及び変更

大島2号線・阿寺中央2号線の認定と大島線・阿寺中央線の起終点の変更

木曾広域連合規約の変更

木曾広域連合の業務の追加に伴う木曾広域連合規約の変更

補正予算審議

●子育て世帯への臨時給付金の世帯数・人数は

▲400人分を計上。12月28日に15歳以下285人に対し10万円を一括給付。1月に高校生等世帯へ給付する。3月までに生まれた出生児に対しては随時給付する。

●まんぷく商品券の販売実績は

▲1万3千枚発行し1万422枚販売。販売率80.2%。残った約20%分は燃料油助成を行う。

●福祉灯油券対象世帯は

▲201世帯。飲食店応援商品券、燃料油助成券、福祉灯油券を同封し年内に発送。

令和3年度 一般会計補正予算の主な内容

会計名	補正額	補正後の予算額	主 な 内 容
一般会計	430万2千円	59億7094万円	乗合タクシー委託料追加 174万円
			福祉灯油券交付 250万円
			子育て世帯への臨時特別給付金 4000万円
			新型コロナウイルスワクチン接種（3回目） 467万円
			村道大島中央線事業縮小による工事請負費等減額 △2021万円
			村道大島中央線事業縮小による遺跡発掘調査費減額 △591万円
			阿寺川線・殿小川2号線災害の所管の変更及び事業不採択 △4252万円

定期監査報告

監査委員 田中芳男
山本秀樹

監査実施期日

11月2日から11日の
内4日間

監査の対象

①財政状況 ②事業
執行状況 ③委託事業
執行状況 ④負担金補
助及び交付金執行状況
⑤未着手事業状況

監査の方法

上半期の一般会計並
びに特別会計の財務に
関する事務の執行につ
いて、予算の執行状況
及びその他関係資料に
基づき、会計管理者及
び関係職員から説明を
受けた。

監査の結果

監査の結果、上半期
に係る財務に関する事
務については適正に執

行されていると認めら
れた。また、事業の執
行も円滑に推移してい
ると判断した。

未着手事業状況

36件の未着手につい
ては、一部を除き年度
内に執行できるものと
判断した。

監査所見（抜粋）

地区集会所維持管理費
助成金

地区集会所維持管理
費助成金については、
地区住民が自主的に管
理運営している施設で
あるが、分館等他の集
会施設の設置状況、必
要性（災害時の避難場
所等）、利用実態など
を検討しながらすすめ
ていただきたい。

ワクチン接種実務者委託

ワクチン接種実務は
今年度実施した経験が
予想される3回目接種
業務に生かされること
を期待する。

（むすび）

一般会計並びに特別
会計とも、事業が円滑
に推移されていると判
断した。大桑橋の完成
が間近となる一方、国
からは新型コロナウイルス
感染症関連の追加
対策も予想されるなど、
業務も多忙になると思
われるが引き続き財政
健全化を堅持しながら
事業を進めていただく
よう要望する。

会計別執行状況

（単位：千円）

会 計	予算現額 A	支出済額 B	執行率(B/A)
一 般 会 計	6,186,439	1,670,922	27.0%
村営水道事業特別会計	232,401	77,806	33.5%
国民健康保険事業特別会計	444,453	163,775	36.8%
農業集落排水事業特別会計	126,932	31,426	24.8%
公共下水道事業特別会計	77,056	25,670	33.3%
後期高齢者医療事業特別会計	66,431	24,305	36.6%

総務社会 常任委員会

◎10月28日開催

「辺野古新基地建設
の中止と、普天間基
地の沖縄県外・国外
移転について国民的
議論を行い、憲法に
基づき公正かつ民主
的に解決するべきと
する意見書の採択を
求める陳情」につい
て（9月定例会委員
会付託）

意見

人道的問題として意
見書を上げている部分
もあるが、様々な考え
方もあり日本の安全保
障にも絡んでくる問題
なので、継続的に様子
を見ても良いのではな
いか。

審査結果

継続審査

経済建設 常任委員会

◎10月21日開催

▼新型コロナウイルス

感染症対策追加支援 事業について

調査の概要

新型コロナウイルス
感染症対策追加支援事
業について説明を受け
た。また、8月豪雨災
害で被害を受けた災害
関連事業費についての
説明を受けた。

所感

飲食店応援商品券配
付事業の計画がある中、
商工会や商店などが中
心となり高齢者にも利
用しやすい事業となる
よう努力していただき
たい。

視察した現地は順調
に工事が進捗している。
念願であった新大桑橋
の完成も間近となり、
殿地区の交通の利便性
が向上することは喜ば
しい。引き続き木曽川
左岸側の取り付け道路
の早期完成に向け努力
をお願いしたい。

議会改革 特別委員会

◎11月15日開催

▼今後の進め方につ
いて

【議員定数】

過日行った住民ア
ンケートや委員から
定数削減は現状必要
がないという考え方
から、現状の10人と
する。

【議員報酬】

議員のなり手不足
解消や女性議員を増
やすことも含め継続
的に検討し、現状の
報酬とする。

【住民懇談会】

新型コロナウイルス感
染に危機感がある。前
回の検証ができていな
い。議員自身が地域
を回り、それを議会
全体で共有する場が
必要である。などの
意見から、今年度は
行わない。

夜間議会、休日議
会、通年議会につい
て今後検討していく。

庁舎建設特別委員会

◎10月21日

▼工事変更内容について

調査の概要

木工事、金属工事、内装工事、外構工事、機械設備、電気設備において工事変更が生じ概算で4千万円の増額となる。それぞれの変更内容について詳細な説明を受けた。工事の進捗率は10月末で63%を

予定している。現在外装の壁の吹付などを仕上げている。また、現地視察を行った。

所感

前回6月に現地視察を行った時の進捗率は5月末で30%であったが、今回は約60%の進捗率となり、庁舎の全容が伺えるようになってきた。工事が進捗してくるにつれ変更

箇所も出てくるが、後々遺憾を残すことの無いよう進めていただきたい。今後も進捗状況を確認しながら十分議論を深めていきたい。



新庁舎視察

一般質問

議員5名が

村政を問う

12月定例会の一般質問は15日に5名5件を行いました。次ページより、質問議員が要約したものを掲載します。

一般質問とは

一般質問は、村が行うすべての事務や事業に関して何でも質問できる大事な議員活動の場です。

年4回の定例会のみで、臨時会ではできません。

・質問時間は30分

大桑村議会では、議員が質問できる時間は答弁を含め1人40分ですが、コロナウイルス対策として議場の換気等を行うため1人30分としました。

・一問一答方式

質問は、一つ質問をして一つの回答を得る一問一答方式です。

この方法は、より問題を深められる方法といわれています。

・事前通告

質問したい議員には、前もって質問内容を記した事前通告書の提出を義務付けています。



坂家 重吉 議員

令和4年度の主な事業は

まずは、新庁舎の円滑な業務開始



工事が進む新庁舎（図書館）

Q 令和4年度予算編成に向け主な事業は。
A 第5次大桑村総合計画の基本目標に従って総合的に予算編成する。
 具体的な事業については、新庁舎開庁を5月連休明けに予定しており円滑な業務開始と秋に予定している図書館開館準備に万全を期す。また、村税のコンビニエンスストア納付や林道の橋梁整備・村道大野線の改良事業などを予定している。

Q 新庁舎の内覧会の実施は。

A 開庁前に内覧会を実施する。
Q 新庁舎開庁に伴う公共交通は。
A 新庁舎への運行ルートについては現在運行事業者と協議を進めており、来庁者の利便性を図る。
Q 新庁舎開庁に伴う文化活動や開庁記念行事は。
A 教育委員会としては生涯学習活動の講演会や研修会を実施したい。また、図書館活動や隣接する中学校とも連携して文化交流活動を進める。
 開庁記念講演会等については実施に向け検討している。
Q 小学校の教科担任制移行に伴う対応について。
A 文部科学省では昨年「義務教育9年



専科教員による家庭科の授業

間を見通した指導体制のあり方」を検討しており、令和4年度から小学5、6年生の英語や算数・理科などの教科について、専門性を持った教師により、きめ細やかな指導体制をつくろうとしている。現段階で具体的なことは示されていないため、今後の長野県教育委員会の指示を待つて対応していく。
 なお、英語指導助手については大桑村で令和3年度から小学校に1人を配置している。
Q 令和5年度以降学校部活動が段階的に地域移行への対応は。
A 文部科学省では令和5年度以降休日の部活動を段階的に地域に移行していくと考えられている。今後、休日の大会のあり方や部活動の管理運営・責任のあり方について学校や保護者と検討していく。

Q 近年多発傾向にある集中豪雨等に対して、防災減災に向けた課題や対応策は。
A 今年度から避難情報の警戒レベルが改正されたこともあり早め避難情報を出すよう努めた。今後、要援護者等の個別避難計画策定や社会福祉協議会とも連携していく。また、昨今の集中豪雨による土砂流出は住居に近い場所でも発生しており、住民自らの判断で早

めの避難行動ができるよう啓蒙を図る。
 情報提供については現在防災無線や一斉メール・ホームページ・ツイッター・Jアラートなどを通じて行っているが、今後はスマートフォンとの連動も研究していきたい。
Q 小河川の氾濫や山腹崩壊への対応は。
A 砂防事業など大規模な防災施設については従来どおり国や県に要望していく。
 村としては河川改修や河畔林整備事業・小河川の維持補修を計画的に進める。
Q ジェンダーフリーについて村長の考え方は。
A 男女の性別による差別がなく共に地域社会を支えていく必要がある。
 役場職員の任用や登用については男性・女性にかかわらず適材適所に配置している。



木戸 勘一 議員

ふるさと納税対応は 返礼品競争へは参加しない



社協デイサービスセンター

Q 2年間続く新型コロナウイルス感染症で政治、経済では大きな影響を受けている。国の債務も膨れる中、来年度に向けた予算編成

での地方交付税、村税への見込みは。
A 来年度、地方交付税については例年並み規模と捉える。村民税、法人税、固定資産税に

についても例年並みと考える。

Q 今年度で大型事業が完了するが、指定管理施設の老朽化が目立ち、あてら荘は築40年、社会福祉協議会は30年以上経過している。今後、改築、移転等の計画は。

A 村では公共施設全体の維持管理経費を平準化させるため、公共施設個別計画を策定している。指定管理施設だからといった計画ではない。今後、第6次総合計画の中でいろいろな意見を聞き検討する。

Q ふるさと納税については応援したい地域への寄附金であるが、村のホームページで「大桑村むらづくり基金」とあり、基金191万円は少ないのでは。
A 寄附金についての考えは今までと変わら

ない。寄附金は少ないが、村の発展を応援する人はいる。財源は有効活用する。

Q ふるさと納税利用で村民税控除額が過去5年間で、利用者103人、379万4千円が流出している。返礼品で地場産業の振興をおこない、寄附金増額はできないものか。

A ふるさと納税について総務省のホームページでは返礼品のことはふれられていない。村では制度の趣旨に反する返礼品競争やポータルサイトには登録しない。
意見 財源確保は企業と同じ。自治体においても努力が必要。村民への希望と安定的な村づくりは大切である。

Q 地域おこし協力隊は2年が過ぎ、活躍が期待されている。コロナ禍にてイベントの開催ができない中、来年度更なる増強は。
A 4月より農業分野にて募集中である。

また、寄附者との交流が魅力の発信につながり移住へのきっかけになる。





清水 芳昭 議員

村道の安全対策は 危険な箇所から対処する



電線等の支障となっている枝条

Q 村民の安全に欠かせない防犯灯。その維持管理の状況は。

A 村内には760基ほどの防犯灯がある。電気料金は1基当たりの消費電力に個数を掛け合わせ、年間300万円ほどになっている。近年、古いものからより消費電力の小さいLEDに切り替えている。

Q LEDへの切り替えに計画性があるのか。

A 特にないが、新設・更新するものが対

象となる。電気料金は、前年対比、10%減となっている。効果が出ている。

Q 伊奈川1号線、駅上から越坂にかけた一帯の木々が成長して、防犯灯の視認障害となっている。また、木々の間を、電線、光ケーブルが縫っている。今夏、枯れ木の枝が落下し、道路に散乱していた。ケーブル等を切断してしまえば村民に少なからず影響を及ぼす。早期の対策が必要と思われるが。

A 早急に対処できるところは対応したい。予算化が必要な箇所もあるので、検討する。また、電柱等の関係機関に支障木の伐



欄干が低く変形した伊奈川水沢4号橋

採等、場所によっては、電柱の移転等を要望していく。

Q 8月の豪雨で被災した小野の滝と、穴沢の国道片側交互通行。小野は開通したが、穴沢は工事にも着手していないが。その理由は。

A 小野は被災した法面がJ.R. 穴沢は、国交省。穴沢の橋梁におおきな損傷があるため、時間がかかっている。

Q 過日、長野県交通安全推進本部から発表された通学路の村内の要対策箇所について。

通学路安全点検 対策内容

場 所	状況・危険の内容	対策内容
工場団地から和村橋の間（県道）	住宅側から歩道への横断が危険	警戒標識、路面表示等の設置
二反田川橋（県道）	欄干が低い	手すり設置等の検討
越坂団地付近	道幅が狭く、法面側にガードレールがない	視線誘導標識等の設置 側溝グレーチング蓋設置済
水沢4号橋	欄干が低く、変形	防護柵の設置
須原サニーハイツ付近	住宅側から歩道への横断歩道がない	横断補助線設置済
大沢2号橋付近	道路幅が狭く、凍結する。川に降りられる	車止めの設置
長野中団地付近	見通しが悪い。転落危険場所がある	防護柵の設置
宮地組付近	見通しが悪い	速度抑止看板の設置
J.R. 隧道内	凹凸があり、浸水することがある	舗装改裝
跨線橋付近（庭の畑橋）	側溝の蓋が破損	蓋付き側溝への改修
上在集会所付近	見通しが悪く速度が出やすい。交通量が多い	速度抑止看板の設置

A 左記の表のとおり。（村道9箇所、県道2箇所。）対策については舗装修繕、防護柵の設置等優先的に事業を進めたい。それまで、

応急的な対策を道路維持管理業務の範囲で対応したい。県道については、対応を要望している。



瓜尾美佐子 議員

灯油代高騰への支援策を

全世帯へ1万円の助成券を配付



福祉灯油券

福祉灯油について

Q 秋以降の原油価格高騰によるガソリンや灯油代の値上げは、暮らしや営業など様々な分野に深刻な影響を与えている。先月、福祉灯油の実施と対象者拡大を求める要望書を出したが、福祉灯油の実施はするか。

A 要綱に沿って助成対象となる世帯に、1万円分の福祉灯油券を交付する。

Q 福祉灯油は対象者が限定されている。

暖房費の節約で、健康に影響を及ぼすことがあつてはならない。感染症予防対策としても灯油の助成対象の拡大を求める。

A コロナ対策として今回、燃料油購入助成券配付事業を実施予定。全世帯対象に1万円分の助成券を配付する。

安全運転サポート車

Q 高齢者によるアクセルとブレーキの踏み間違ひによる事故が増えている。

県内では、7月時点で13市町村が安全運転サポート車購入に対して費用の一部を助成している。南木曾町でも高齢者の安心・安全な生活支援事業のひとつとして車両の購入に3万円、装置取り付けに1万5千円の補助を行っている。仕事や生活上運転を続けたい高齢者の安心、安全のためにも支援を求める。

補聴器へ補助を

Q 全国で加齢性難聴者に対する補聴器購入への補助制度が広がっている。郡内では既に

A 大桑村の様な中山間地では、必要だと考える。国の補助制度もあるので検討する。

木曾町で行っており、今年4月から南木曾町で始めている。

難聴が認知症の最大因子と言われている。認知症予防のためにも社会的な孤立を解決するためにも補聴器の利用は有効である。必要な人が補聴器を購入できるように助成制度を求める。

A 今回で3回目の質問となるが、これまでいろいろ検討する中、現状では考えていない。

特別障害者手当

Q 特別障害者手当は日常生活に常時特別な介護が必要な20歳以上の人

A 対象者に対してわ



かりやすく周知することが必要であり、しっかりと対応していきたい。
意見 障害者手帳がない人も、施設へ入所している人も申請ができることなど広く周知を徹底してほしい。

高齢化が進む中、高齢者や生活弱者が安心・安全に暮らし続けたいけるように、きめ細やかな施策を前に進めることを求める。

ふるさと納税の積極的な活用を 今まで通りのスタイルを続けたい



鈴木 武 議員

Q 村内人口の減少を食い止めることは、容易なことではない。そして、人口の減少は、交付金にも影響を与える。ウィズコロナの新しい日常生活は、一部の地場産業を除き、多くの事業所では、先行きに不透明感が漂っている。自主財源も令和3年度は、前年度より1500万円程の減額となった。多くの自治体では、自主財源となる「ふるさと納税制度」を活用し、地域事業に生かす取り組みを行っている。2020年度の全国のふるさと納税件数は、3488万件、受入額は6724億円。受入額は前年比137%増、受入件数は149%増である。当村も、返礼品となる特産品開拓による地場産業の活性化が期待できると感じる。時代の風を読み「ふるさと納

税」を積極的に活用することを改めて求める。**A** 返礼品目当てではなく、純粋にふるさとを応援する気持ちのある寄付は受けたい。ふるさと納税制度の今の在り方に疑問を持っているので、今まで通りのスタイルを続けたい。**意見** 地方自治体の中には、ふるさと納税により、増えた税収で住民への社会保障事業を整えたり、返礼品生産者が高まる需要に雇用を増やす等、地方を潤す結果となっている。当村も若者の定住化促進事業、イターン・Uターン推進事業、空き家活用事業といった、事業目的を明確化して「ふるさと納税制度」の積極的な事業展開を期待したい。

Q 自治体の中には、産業界や大学と提携し、アイデア等を政策や事業に取り入れているところがある。異業者との連携やインターネットを活用し、空き家対策等テーマを決め、村内外からアイデアを募集して事業計画に反映させる取り組みを提案する。村内に於いては、今以上に村政へ関心を持っていただけることにもなり、村外には村のPRともなり得るのではないか。**A** 外郭団体に村の事業に参画してもらうことは、多角的専門的仕事が期待される。村では今、保健・健康部門に関して、東海学園大学と連携を継続し取り組んでいる。



R2 まめ健康教室【東海学園大学連携】

木曽広域連合議会報告 第4回定例会（11月30日開催・木曽文化公園）

議案5件（補正予算2件）及び同意1件が上程され、審議の結果、原案通り可決承認された。

●工事請負契約の締結2件 ・木曽文化公園ホール天井等改修工事

指名競争入札により、(株)岡谷組が、3億5750万円で落札。

・木曽文化公園ホールの空調設備等改修工事

指名競争入札により、岡谷・倉本特定建設工事共同企業体が、3億118万円で落札。

●条例の廃止

・木曽広域連合木曽クリーンセンター可燃ごみ処理施設解体基金条例の廃止について

木曽クリーンセンター可燃ごみ処理施設解体終了に伴い、設置が不要となるため条例を廃止。

●一般会計補正予算

878万8千円を減額し、予算総額45億715万6千円とするもの。

主たるものは、8月豪雨災害への対応による時間外勤務手当関係費90万円の増、インターネット上位回線使用

料増による使用料及び賃貸料、設備工事増等1146万円の増である。減額計上となった事業は、木曽クリーンセンター管理運営費500万円の増、コロナ禍及び改修工事に伴う休館増による文化公園管理費1億円の増が減額計上となったためである。

●介護保険特別会計補正予算

歳出予算の組替のため補正額0円、総額4億4275万2千円とするもの。

●終了後、全員協議会

・木曽広域連合規約の変更について

成年後見制度中核機関に関する事務については、平準化し利用促進を図るため、各町村共有の事務として木曽広域連合が行うこととした。

自立支援協議会設置に関する事務については、運営を町村持ち回りで実施することで事業継続や組織運営の安定性等に課題が生じたことから同様に、木曽広域連合の処理する事務としたとの説明を受けた。

規約変更実施日は、令和4年4月1日。

（報告者 鈴木 武）

松塩筑木曽老人福祉施設組合議会報告

11月定例会

▼11月8日開催

今定例会では、令和2年度決算認定、監査委員の選任、公平委員の選任、令和3年度補正予算等を審議し、原案通り可決承認した。

令和2年度決算認定

健全財政維持を目標として、歳入は48億2421万円で前年度比8193万円の増となった。歳出は46億260万円で前年度比7833万円の増となり、形式収支は2億2161万円で前年度比360万円の増となった。

翌年度への繰越すべき財源はないため、実質収支は形式収支と同額の黒字決算となった。また、単年度収支に財政調整基金積立金及び

繰入金を加減した実質単年度収支は1億1281万円の歳入超過となった。

全員協議会

令和2年度の収支状況は新型コロナウイルス感染症の影響による利用率の低下及び、6施設のデイサービス閉鎖に向けての調整による収入減となったが、感染予防対策への支出は増加した。

第8期介護保険事業計画をふまえ、利用者一人一人のニーズに即したケア及び看取りへの対応、地域のセーフティネットとして、より質の高い介護サービス提供をめざす。介護人材の確保定着が課題となっているため、就職者、転職者への積極的アプローチを行い、

人づくりへの改革に必要な経費を計上する。

参考

令和4年度から6年度の期間、郡内の3施設の定員数が各10名減となる。

（報告者 勝野清子）

令和2年度 歳入歳出決算額

歳入	合計	48億2,421万円
歳出	合計	46億 260万円
歳入 歳出 差引額		2億2,161万円
翌年度へ繰り越すべき財源		—
実質収支額		2億2,161万円

行政報告(抜粋)

新型コロナウイルス感染症ワクチン追加接種について

村の新型コロナウイルス感染症ワクチン接種は、8月28日に予定していた年代すべて完了しました。65歳以上の高齢者で91・0%、65歳未満では80・7%の人が接種を受けました。

このワクチン接種によって、発症予防効果が得られる一方で、感染予防効果や高齢者の重症化予防効果は時間の経過に伴い、徐々に低下していくことが様々な研究結果から明らかになってきました。国は感染拡大防止、重症化予防の観点から2回目の接種完了から原則8か月以上経過した者について接種をすることを決定しました。

村はこれを受け、追加接種の準備を進めています。11月29日、2回目接種を受けた65歳以上の高齢者を対象に接種希望調査を行いました。この調査により前回同様接種を進めます。接種時期は、2回目接種終了から8か月経過後の2月末から3

月を予定し、村民体育館、保健センターでの集団接種を基本とします。

65歳未満につきましては、計画が決まり次第お知らせします。

8月豪雨による国道19号の被災状況

8月14日、15日の豪雨は村でも避難指示を出するなど対応をしてきました。8月14日は穴沢付近の国道19号の土砂崩落だけではなく郡内各所で災害が発生しました。JRへの被災も見られましたが、概ね8月16日には開通しました。しかし現在も片側交互通行を行っている箇所もあります。

今回の災害は、小渓流からの土砂の流出や法面崩壊が多く国土交通省飯田国道事務所、JR東海、長野県、被災市町村で木曽地域土砂災害対策協議会を開催し、国道19号、中央線などの公共施設について検討しました。道路の被災箇所の復旧は飯田国道事務所が担当しますが、今回の災害のもとなる河川や小溪流の維

持管理がこれからの課題となりそうです。

今後も、国や県に対して要望活動を進め、改善していきたいと思えます。

新ALT着任

新しいALTが10月14日来庁し、18日から大桑小学校に勤務しています。名前はオニール・ドウブラスさん、26歳でフランス出身です。今回は友好提携しているシェルビービル市からの民間の斡旋会社を仲介して、当村にも数回訪問経験のある女性に絞り交渉を続けてきましたが、このコロナ禍アメリカを含む海外からの入国が禁止されたためこの会社を通じ国内にいる外国人の斡旋を受け、今回の着任となりました。

ALTの増員によって、小学校で必須科目となった外国語を教えることで教員やALTの負担を少なくすることが可能となりました。今後も、小・中学校の外国語授業だけでなく、保育園の訪問や一般を対象とした英会話教室、地域住民との国際交流が今より盛んに行われることを希望します。

議会活動日誌

9 月

- 15日 9月定例会
- 16日 9月定例会
議会報編集特別委員会
- 24日 木曽南部土砂防災ネットワーク議員連盟役員会
- 27日 長野県議会議長会政務調査会全体研修会
- 28日 国道19号整備促進要望活動
町村長、議長会合同要望活動

10 月

- 5日 木曽郡町村議会議長会 web 会議
- 12日 議会報編集特別委員会
木曽南部木曽川右岸道路整備促進期成同盟会要望活動
- 14日 木曽南部土砂防災ネットワーク議員連盟総会
- 18日 議会報編集特別委員会

- 19日 木曽広域
総務常任委員会研修会

- 21日 経済建設常任委員会
庁舎建設特別委員会

- 25日 長野県議会議長会定期総会
木曽郡町村議会議長会県要望活動

- 28日 10月臨時会
総務社会常任委員会

11 月

- 2日 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟長野県連絡会総会

- 8日 松塩筑木曽老人福祉施設組合議会 11月定例会

- 15日 議会改革特別委員会

- 18日 木曽広域 議会運営委員会
木曽広域 総務常任委員会

- 19日 木曽広域 福祉環境常任委員会
木曽広域 経済観光常任委員会

- 26日 11月臨時会
大桑中学校3年生との懇談会

- 29日 木曽郡町村議会議長会

- 30日 木曽広域連合議会第4回定例会

12 月

- 3日 県境近隣市町村議会議長会要望活動
(飯国、多治見、恵那)

- 4日 大桑橋渡橋式

- 6日 蘇南高校地元市町村協議会

- 7日 木曽南部直轄砂防要望活動

- 8日 議会運営委員会

- 10日 行政懇談会

- 13日 県境近隣市町村議会議長会
要望活動 (木曽建)

- 15日 12月定例会
議会報編集特別委員会

- 16日 12月定例会

大桑中学校3年生との懇談会

～村政への疑問・提案・意見を投げかける～

大桑中学校3年生21人が11月26日中央公民館で村幹部との懇談会を議会形式で行いました。

生徒は1年生の時から地域学習に取り組む中で生まれた疑問や意見・提言を事前学習を積み重ねながら練り、参加した21人全員が堂々と村長や村幹部へ投げかけました。

大桑村議会の議長が進行役を務め懇談会を進めました。



【産業・観光】

Q 最近阿寺川の使い方のマナーが悪い。駐車場料金を取り阿寺溪谷の保全などに使ったどうか。

A 村でも阿寺溪谷を訪れるマナーの悪い観光客に困っている。

今年度「大桑村阿寺溪谷における自然環境の保全に関する条例」を作り、バーベキュー、花火、たき火、ごみ投棄を禁止したことで、ごみの量は大幅に削減できた。駐車場料金は徴収していないが「森林環境整備協力金」として一人100円を目安に任意で負担してもらっている。阿寺溪谷の維持管理にはこれ以上に費用がかかっていることから検討したい。

【建設】

Q 通学中道路が狭く、自動車をよけるために草むらに入らなくてはいけない時や待避所で車をやり過ごすまで待つことがある。また、道路の凸凹に水たまりができ歩きにくい場所がある。村道を広げたり凸凹を直してほしい。

A 現場の状況や地域の方々からの要望を受けて計画的に改良工事を行っている。道路の凸凹については職員が見回り、簡単に補修ができるものはその都度職員が対応し、職員で対応できないものは業者へお願いしている。気になる箇所があれば役場へ連絡をください。

【福祉】

Q 国道19号は交通量



自分の意見を堂々と発言

も多く車もスピードを出している。信号機があっても、高齢者の方や目の不自由な人が通るには危険なため、音を出す装置を付けた方が良いと思う。

A 全国で音の出る信号機は2万か所ある。しかし、信号機を設置する場所を決めたり、設置するのは役場ではなく警察の仕事になる。

【教育】

Q テレビなどの報道で授業や仕事の合間に短時間昼寝をすると集中力が高まり能率が上がるといふことを見たことがある。給食後、昼寝の時間をとることで授業中寝る人を少なくできると思うがどうでしょうか。

A 昼寝の時間は15分から30分がベストと言われているが、学校は授業時間が決められている。掃除や給食、部活の時間も必要。1日のスケジュールの中で昼寝の時間が取れるかわからないが、先生とも相談してみたらどうか。

最後に、平尾悠夏さんから、「発言するときには緊張したが、村の幹部の皆さんに直接話ができ良かった。今までは中学生だから政治には無関係だと思っていたが、3年後には選挙権が与えられる。これまで以上に国や地方の政治に意識を向けたい。」と力強い想いが語られました。また村長は、「若い人が考えていることがこれからの村づくりにつながっていく。いい大桑村を皆さんと一緒に作っていきたい。」と中学生の皆さんに感謝していました。

がんばる 村内企業 10

株式会社 IHIターボ

～モノづくりを通して地域貢献が
継続的になされる会社を目指して～

太平洋戦争中の1943年11月、石川島芝浦タービン(株)は橋場地区にある紡績工場を買収して、同社木曽工場を設立し、自家用治工具の生産を開始しました。これがIHIターボ木曽工場の始まりです。その後、事業の拡大とともに、和村地区に木曽第二、第三工場を設立し2021年12月現在の従業員数は木曽工場で430名、辰野町の新町工場で170名、合計600名となっています。

低燃費で環境にやさしいIHIブランドの車両用ターボチャージャーを製造し、2019年には累計生産台数3000万台を達成。世界的に見ても有数のターボチャージャーの生産

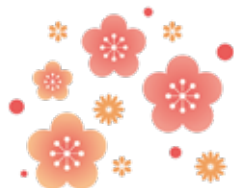


工場になっています。

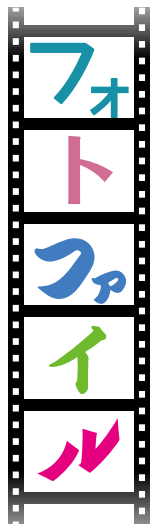
直近では、コロナ禍の中、生産の山谷はありますが、品質の良い製品をタイムリーにお客様に提供できるよう日々の生産活動に励んでおり、加えて安定的な利益を出すことで株主や従業員とその家族、そして地域の皆様に必要とされる企業になることがIHIターボの使命と考えております。ぜひとも地域の皆様のご支援をお願いします。

(総務Gr 杉崎幸雄さん)

▼中央アルプスとダム湖
四季折々、ここからの風景は癒されます。
災害のない穏やかな年になるといいですね。



表紙撮影 振田 正さん (上在郷)



村への思い 19

大桑の土で「大桑焼」

地域おこし協力隊 奥野 宏さん

大桑村に地域おこし協力隊として着任し1年半経過しました。

2人の子どもたちも村の自然の中でのびのびと過ごしています。

今は和村の古民家改修作業を主に活動しています。元養蚕家で立派な梁と広々とした空間、山の見える景色に一目惚れしました。村の大工さん、木工所の方々に技術指導して頂きながら少しずつ改修を進めています。また、元野尻宮林署宿舎の床材を和村に移築するために解体作業もしています。先日、木曽学びネットワーク主催の「里らば」プロジェクトに参加した際に古民家のお披露目をしました。僕は、大桑村の土を使ったやきものの「大桑焼」の展示と庭に作ったミニ穴窯の窯出しを行いました。寒い日にも関わらず幅広い世代の村民の方々をはじめ多くの方がいらしてくださいました。まだまだ改修には時間がかかりますが、定期的に展示会等を企画しておりますのでまた案内をさせていただきます。



池田昌広氏撮影

編集後記

▼新しい年が始まりました。
寒さが身にしみる日々ですが、やがて出会える花咲く春の日を楽しみに、笑顔の準備を致しましょう。

委員長 細田光一

議会報編集特別委員会
委員長 細田 光一
副委員長 沼田 友行
委員 清水 芳昭
坂家 重吉
勝野 清子